

『明るく・楽しく・元気よく、そして前向きに』なるための

健康レポート2026

三菱食品株式会社

健康経営に関連する外部認定



2026
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門
ホワイト500



2026
食育実践優良法人



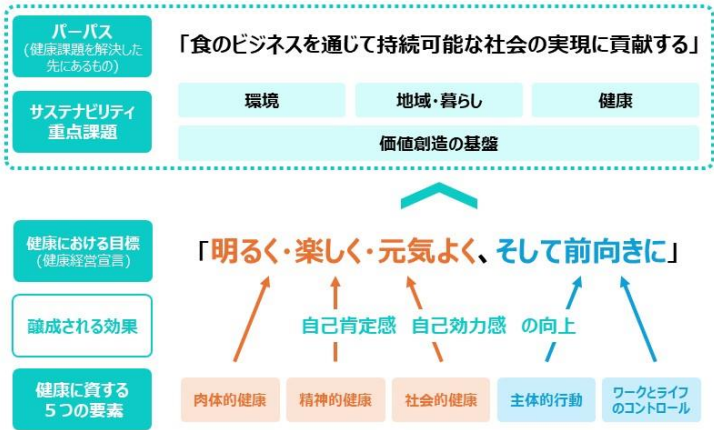
三菱食品の健康経営

三菱食品は、「食のビジネスを通じて持続可能な社会の実現に貢献する」というパーパスのもと、役員一人ひとりの活躍が不可欠であると考えており、その達成に向け当社の経営計画「MS Vision 2030」では人的資本強化を人財育成と社内環境整備の2本柱で推進し、2030年度目標として「社員エンゲージメントスコア」を70%以上にすることを表明しています。“働きやすく、働きがいのある組織風土”を醸成するための社内環境整備として目指す姿(人財のWell-Being)に「明るく・楽しく・元気よく、そして前向きに」を掲げ、健康経営もこの方針に則って推進しています。心理的資本である「明るく・楽しく・元気よく、そして前向きに」というポジティブな感情の源には“自己肯定感”と“自己効力感”があり、これらを育むことで、自然と健康に向き合う姿勢が生まれると考えています。

健康(Well-Being)は、単に病気がない状態を指すのではなく、身体的・精神的・社会的に満たされた状態に加え、主体的にライフステージに応じた経済的不安への対応、知性の向上、社会的つながりの創出、そしてワークとライフを自分自身でコントロールすることが含まれると定義しています。これらを「肉体的健康」「精神的健康」「社会的健康」「主体的行動」「ワークとライフのコントロール」の5要素に集約し、バランスよく高めることで、ポジティブな働き方の実現を目指しています。従業員が安心して長く働き続けられる環境づくりの一環として、仕事と育児・介護、仕事と治療の両立支援にも注力してまいります。相談体制の整備や情報提供を通じて、不安の軽減と早期対応を図ることで、多様なライフステージに応じた働き方を支援し、持続的なWell-Beingの実現につなげてまいります。

健康経営における2030年度までのロードマップでは、2024年度までに「自分ゴト化」を進め、2027年度までに「環境整備・制度化」を強化。最終的には、当社の取り組みが社会に共感をもたらす「感化」へと進化させることを目指しています。このロードマップの達成度を測る成果指標(KGI)として、「社員エンゲージメントスコア」を目標設定するとともに、健康経営における施策の進捗指標(KPI)として「自己肯定感」「自己効力感」の目標値も設定しています。また、「適正体重維持者率」「運動習慣者率」「喫煙率」「睡眠により十分な休養が取れている人の割合」を、KPHI(Key Physical Health Indicator)として管理しています。

外部評価として、3年連続で「健康経営優良法人(ホワイト500)」に認定されました。また、農林水産省と経済産業省が共同で創設した「食育実践優良法人顕彰制度」においても認定を受けています。今後も食の企業として、社内外に健康価値を届け続けてまいります。



代表取締役社長(CEO)
(兼) CSO

伊藤 和男

取締役副社長(CAO)
(兼) コーポレート担当役員(総務人事・コンプライアンス)
(兼) CHRO
(兼) CHO(健康増進担当)

山口 研

【図】三菱食品の健康経営のアプローチ

2025年度の健康経営の振り返り

当社では、社員一人ひとりが明るく・楽しく・元気よく、そして前向きにいきいきと働き続けられることを人的資本強化における一つの柱と位置付け、健康経営の推進に継続的に取り組んでおります。その取り組みが高く評価され、2025年度においても、経済産業省と日本健康会議が顕彰する「健康経営優良法人(大規模法人部門)」の上位500法人に選定される「ホワイト500」に3年連続で認定されました。また、運動習慣の定着に向けた活動が評価され、スポーツ庁「スポーツエールカンパニー」、東京都「スポーツ推進企業」の認定を継続して取得しています。さらに、食を通じた健康づくりにも力を入れており、社員の食生活改善に向けた取り組みが評価され、「食育実践優良法人」としても認定されています。これらの認定は単なる表彰ではなく、社員が安心して働き続けられる職場づくりに向けた取り組みの成果であると考えています。



人生100年時代を迎える中で、仕事と健康は切り離せない関係にあります。食事・運動・睡眠・心の健康・物事の捉え方など、多面的な健康支援を展開しており、2025年度は、これまで築いてきた基盤をさらに発展させる年となりました。

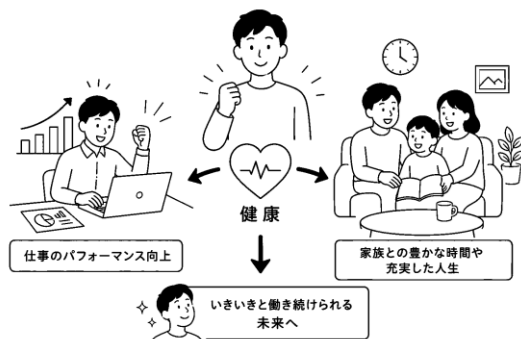
食の専門知識を有する社員による管理栄養士プロジェクトを本格展開したほか、「からだシフト」を活用した糖質オフチャレンジの実施など、当社ならではの“食”を活かした健康施策を強化しました。また、健康習慣の定着を目的とした「健幸ハピネスアクション」についても内容を見直し、社員がより楽しみながら継続的に取り組める、実効性の高いプログラムへと進化させています。

健幸ハピネスアクション

p.7のコラムで紹介しておりますので、ご覧ください。

健康経営を本社主導の活動にとどめることなく、全国の各本部・支社に配置された健康増進担当者が中心となり、それぞれの職場環境や課題に応じた健康施策を企画・実施しています。

現場の声を反映した活動が全国各地で展開されることで、社員同士のつながりや健康意識の向上に寄与し、健康づくりの輪が着実に広がっています。



このような取り組みを通じて、社員一人ひとりが自らの健康と向き合い、主体的な健康行動を実践できる環境づくりが進んでいます。健康であることは、仕事のパフォーマンス向上だけでなく、充実した人生や豊かな時間にもつながります。当社は、社員が自分らしく働き続けられるようWell-Beingやライフデザインの向上を支援しています。

健康経営への取り組みは、現在働いている社員だけでなく、これから三菱食品の仲間となる学生やキャリア採用候補者の皆さまにとっても、魅力として捉えていただけると嬉しいです。取引先への提案を目的とした展示会「ダイヤモンドフェア2025」では人的資本経営をテーマとしたパネルを掲示し、社内環境整備の一環として健康経営の取り組みを紹介することで、来場者の理解促進を図りました。

また、当社が培ってきた健康経営の知見やノウハウについては、既に健康経営に取り組まれている企業・団体様はもちろん、これから取り組みを始める企業・団体様とも積極的に共有し、共同での取り組みや支援を通じて、社会全体の健康増進にも貢献してまいります。

各種施策

肉体的健康	精神的健康	社会的健康	主体的行動	WLC(※)	施策	内容	人数	費用	満足度	おすすめ度
◎	○	○	○		健幸ハピネスアクション	保健師が伴走し、ご自身のWell-Being向上を支援する健康プログラムです。食事・運動・睡眠・カウンセリングなどから、ご自身でメニューを選択して取り組んでいただきます。「真因へのアプローチ」「個人に寄り添うソリューション」を特徴とし、自己肯定感・自己効力感を大切に支援しております。なお、2025年より食事メニューに腸活コースを追加しております。	—	—	—	—
◎		○			管理栄養士プロジェクト	管理栄養士・栄養士資格を有する社員の知識・スキルを活用し、新たな価値創造に取り組んでいます。社外ではスポーツ施設のイベントにて食育クイズ大会や食事・栄養相談ブースを出展しました。社内では食事・栄養相談の実施に加え、夕食選びのポイントを伝えるイベントを開催しました。	—	—	—	—
◎		○			糖質オフチャレンジ2025	約50名の社員を対象に、70日間の糖質コントロールに取り組む「糖質オフチャレンジ2025」を実施しました。健康ブランド「からだシフト」を活用し、毎週、管理栄養士が食事内容の振り返りと助言を行う伴走支援により、無理なく継続できる食習慣の改善と健康意識の向上を図りました。	51名 (体験者)	—	—	—
◎			○		食育マルシェ®	食生活向上を目的に、「食育マルシェ®」を導入しました。専門資格を有する講師によるクイズ形式のセミナーと、こだわりの旬野菜の提供を組み合わせることで、楽しみながら正しい知識を習得し、日常の食生活改善や野菜摂取行動の促進につなげました。	728名 (全6回参加者合計)	579千円	—	—
◎			○		ベジチェック測定会	日本人の食事摂取基準では、1日当たり350gの野菜摂取が推奨されています。本取り組みでは、自身の野菜摂取量の把握と食生活改善への意識向上につなげることを目的に、「ベジチェック®」(※)を活用した測定イベントを開催しました。 (※)カゴメ株式会社様が提供する、センサーに手をかざすだけで野菜摂取レベルを測定できる機器	92名 (参加者)	—	—	—
◎			○		睡眠ファースト週間	睡眠習慣の改善を目的に、情報発信および1週間の睡眠改善に取り組みました。最終アンケートでは回答者129名のうち約8割が意識向上を実感し、45%が睡眠の質の変化を感じたと回答しており、行動変容や健康意識の高まりに一定の効果が確認されました。	129名 (最終アンケート回答者)	0円	3.6	—
◎			○		睡眠セミナー	睡眠セミナーでは、睡眠の重要性と行動改善について解説しました。睡眠不足は集中力低下や免疫低下、生活習慣病リスクの増加などに影響し、パフォーマンスにも直結します。まずは睡眠時間の確保が最優先であり、生活リズムの見直しや環境改善により質の向上も図ることが重要です。社員一人ひとりが適切な睡眠習慣を身につけることで、健康増進と生産性向上を目指します。	249名 (申込者)	450千円	8.4	8.3
◎			○		AI姿勢健診イベント	正面と側面の2枚の写真をもとにAIによる姿勢分析で現状と将来予測を可視化するとともに、理学療法士からの結果解説やセルフケア指導を実施した体験型プログラムを開催しました。	165名 (参加者)	675千円	—	—
◎			○		スポ活(社員紹介)	仕事とスポーツを両立する社員へのインタビューを実施し、両立の工夫や運動の魅力を社内に発信しています。これによりスポーツへの関心喚起と運動習慣の定着を促進しています。また、番外編として野菜摂取量の多い社員を紹介する「ベジ活」企画も展開しました。	—	—	—	—



管理栄養士による食育クイズ



食育マルシェ®



AI姿勢健診イベント

肉体的健康	精神的健康	社会的健康	主体的行動	WLC(※)	施策	内容	人数	費用	満足度	おすすめ度
◎	○		○		ヨガ教室開催	社内にヨガ講師を招いた実践型の運動イベントを開催しました。初心者にも理解しやすい丁寧な解説のもと、無理なく取り組める内容とすることで、継続的な運動習慣の定着と健康意識の向上につなげました。	37名 (参加者)	35千円	—	—
◎			○		健康機器 利用促進イベント	社内に設置したぶら下がり健康器および握力計の活用促進を目的に、トレーナー資格を有する社員による運動解説イベントを実施しました。各機器の正しい使い方や効果的な運動方法を紹介し、利用への心理的ハードルを下げることで、日常的な運動習慣の醸成を図りました。	60名 (申込者)	0円	—	—
◎					「運動のススメ」	社内のトレーナー資格を有する社員が、運動のメリットや効果的な実践方法、習慣化のポイントについて解説するセミナーを実施しました。継続的な運動につなげるための具体的な導線も提示し、行動変容を促す取り組みとなりました。	58名 (参加者)	0円	—	—
◎			○		QOL健診	明治安田様が提供する「QOL健診」を実施しました。短時間で全身の健康状態を可視化し、その場で結果をフィードバックすることで、自身の生活習慣を見直すきっかけとなりました。	73名 (申込者)	—	—	—
◎			○		RIZAPウェルネス プログラム	RIZAP式目標設定の考え方を活用し、生活習慣改善に向けた「運動・食事・メンタル」の基本を体系的に学ぶセミナーを実施しました。行動を継続するための習慣化のポイントを理解し、実践的に健康づくりへつなげることを目的としています。	114名 (申込者)	—	—	—
◎		○	○		卒煙サポーター 制度	喫煙しない社員が喫煙者を応援し、卒煙を後押しする「卒煙サポーター制度」を実施しています。卒煙達成時には本人とサポーター双方にインセンティブを付与し、前向きな行動変容を促進する「卒煙エール施策」として位置付け、組織全体で健康意識の向上を図っています。	—	—	—	—
◎			○		乳がん模型 触診体験	乳房模型を用いた乳がん触診体験会を実施し、模型内に再現された複数のしこりの感触を実際に体験できる機会を提供しました。他の健康イベントに併設して開催することで参加しやすい環境を整え、女性だけでなく男性にも参加いただくことで、乳がんに対する理解と関心の向上につなげました。	223名 (参加者)	0円	—	—
	◎		○		依存症セミナー (スマホ依存)	スマホ依存をテーマとしたセミナーを実施しました。依存のメカニズムや影響をクイズやセルフチェックを通じて学び、自身の利用状況を見直すとともに、適切な距離感での活用方法や健全な行動習慣の形成につなげる機会を提供しました。	95名 (申込者数)	450千円	8.2	8.0
	◎		○		レジリエンス セミナー	レジリエンス向上を目的としたセミナーを実施し、ストレスへの対処や心身の整え方について体系的に学ぶ機会を提供しました。休養の質を高める具体的な手法や、自己認識・感情コントロール・人とのつながりなど、しなやかに困難を乗り越えるための要素を理解し、日常で実践可能な行動につなげる内容としました。	136名 (申込者数)	450千円	8.0	8.2
○		◎	○		元アスリートから 学ぶマネジメント	元女子バレーボール日本代表キャプテンの荒木絵里香氏を講師に迎え、講演会を開催しました。世界での競技経験をもとに、チームマネジメントや円滑なコミュニケーションの重要性についてご講話いただき、社員同士の相互理解と信頼関係の醸成を通じた社会的健康の向上につなげました。	147名 (申込者)	—	8.8	8.5
		◎	○		ペアレンツ コーチング	子育てにおけるコミュニケーション力の向上を目的に、開講資格を有する社員が、子育てに関心のある社員向けに講座を提供しています。「子育てエール施策」として位置づけ、子育てへの向き合い方を見つめ直す機会を創出し、安心して仕事と育児を両立できる職場環境づくりにつなげています。	32名 (参加者)	—	—	—



ヨガ教室の開催



荒木絵里香氏の講演



ペアレンツコーチング

肉体的健康	精神的健康	社会的健康	主体的行動	WLC(※)	施策	内容	人数	費用	満足度	おすすめ度
	○	◎	○		認知セミナー	認知行動科学に基づき、メンタルタフネス向上を目的としたセミナーを実施しました。思考のクセや感情の揺らぎの仕組みを理解し、事実と解釈の整理や視点の切り替えを通じて、ストレスに左右されにくい思考を習得するとともに、感情調整や自己効力感向上など、回復力を高める実践的な手法を学ぶ機会を提供しました。	363名 (申込者数)	450千円	—	—
	○	◎	○		感情マネジメントセミナー	モヤモヤとした曖昧な不快感の正体や発生メカニズムを理解し、適切に向き合うためのセミナーを実施しました。価値観や思考の整理を通じて感情の原因を可視化し、発散や伝え方の工夫により手放す方法を学ぶことで、日常のストレス軽減と心身の安定につなげる機会を提供しました。	376名 (申込者数)	450千円	—	—
	○	◎	○		言動セミナー	言葉と行動に焦点を当てたメンタルタフネス向上セミナーを実施しました。感情に流されやすい場面での適切な振る舞いや、間の取り方、一呼吸置く技術、相手に不快感を与えにくい伝え方を学び、円滑なコミュニケーションと良好な人間関係の構築につなげる実践的な内容としました。	376名 (申込者数)	450千円	—	—
		◎			社会的健康 セミナー効果検証	認知・感情・言動をテーマとした社会的健康セミナーを実施し、参加者の変化について効果検証を行いました。検証の結果、前向きな思考や行動の向上などメンタルタフネスに改善傾向がみられたほか、メンタルヘルスリテラシーも向上していることを確認することができました。	—	—	—	—
○	○		◎	○	ジェネレーショナル ヘルスサポート	年代ごとに異なる健康課題に適切に対応するため、事前に学ぶ機会として「ジェネレーショナル・ヘルス・サポート」を実施しています。対象年齢を25歳、30歳、40歳、45歳、60歳に設定し、疾病の予防や健康意識の向上を図ることで、安心で快適な生活の実現を目指しています。	—	—	—	—
	○	○	◎		コーチング マインドセット セミナー	コーチングの考え方を学ぶセミナーを実施し、自身の思考や感情を整理しながら前向きな行動につなげる力の向上を図りました。脳の仕組みやコーチングの効果を理解するとともに、事例を通じて実践的な活用方法を学び、自分自身や周囲とのコミュニケーション改善に活かす機会を提供しました。	157名 (申込者)	350千円	8.5	8.5
○			◎		がんセミナー	専門医を講師に迎え、がん体験を通じた人生観の変化に焦点を当てたセミナーを実施しました。多数の患者との対話経験をもとに、病との向き合い方や人生において大切な価値、当事者や家族への寄り添い方を解説し、自身の生き方を見つめ直すきっかけを提供しました。	224名 (申込者)	—	8.8	8.6
	○	○	◎		健康の秘訣の 連載	役員自らの健康への取り組みを紹介し、多忙な中でも実践できる健康管理の工夫を社内にも共有しています。社員がその姿勢を参考にすることで健康意識の向上を図ることを目的としています。2025年度は主に精神的・社会的健康をテーマに取り上げています。	—	—	—	—
○	○		◎		Well-Being 実現への表明	運動および食事に関する自身の取り組みについて、社員一人ひとりが目標を宣言する機会を設けています。年に1回、自らの健康行動を見直すことで意識向上を図り、継続的な実践につなげる施策です。主体的な健康づくりを推進しています。	—	—	—	—
			○	◎	介護セミナー	認知症に関する基礎知識と介護のポイントを学ぶセミナーを実施しました。症状や進行の理解に加え、家族としての適切な関わり方やコミュニケーション方法、生活習慣の見直しによる予防・改善策について解説し、介護への不安軽減と仕事との両立に資する知識習得の機会を提供しました。	166名 (申込者数)	230千円	8.1	8.2
			○	◎	介護相談窓口の 開設	仕事と介護の両立を支援するため、介護に関する相談窓口を設置しています。専門的な相談対応を通じて介護に対する不安の軽減を図り、安心して長く働き続けられる職場環境の整備を推進しています。	—	—	—	—

健幸ハピネスアクション

とは

健幸ハピネスアクションは、一人ひとりが自分らしい理想の人生やありたい姿を描き、その実現に向けて健康行動を主体的に選択・実践できるよう支援する健康増進プログラムです。

プログラムでは、食事・運動・睡眠・メンタルサポート・
卒煙などの多面的なアプローチを用いながら、
身体だけでなく心も含めたWell-being（良好な状態）
の実現を目指しています。



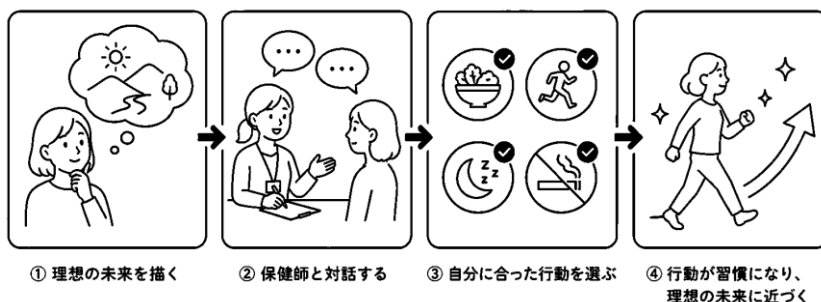
本取り組みの着想の原点には、「後悔しない保健指導」という考え方があります。従来の保健指導では、健康診断結果や生活習慣の改善に焦点が当たりがちですが、それだけでは行動変容が長続きしないケースも少なくありません。そこで、単なる数値改善を目的とするのではなく、「自分はどのような人生を送りたいのか」「将来どのような自分でありたいのか」といった本人の価値観や願いに目を向けることを重視しています。健康は目的ではなく、自分らしい人生を実現するための手段であるという考えのもと、参加者自身が納得感を持って行動を選択できる仕組みです。

実施に際して、事前アンケートによる健康スコアの確認と保健師による個別面談を実施します。面談では、健康課題だけでなく、1年後に実現したいことや10年後のありたい姿などについて対話を重ね、自分自身の価値観や本質的な動機を整理します。そのうえで、参加者に適した健康プログラムを選択し、最長3か月間にわたって実践を継続します。さらに卒業面談を通じて成果や変化を振り返り、今後の目標につなげていきます。



特徴は、専門職による伴走支援にあります。保健師を中心に、管理栄養士、理学療法士、睡眠のアドバイザー資格者、心理資格を有するカウンセラーなど、多職種の専門家がチームとなって参加者をサポートします。健康課題の「真因」に着目し、一人ひとりの生活背景や考え方に寄り添いながら改善策を提案することで、無理なく継続できる行動変容を目指しています。参加者は自身の課題や目標に応じて単独または複数のプログラムを選択でき、専門職との継続的なコミュニケーションを通じて行動の定着を図ります。

また、本取り組みでは自己肯定感と自己効力感を育むことも目的にあります。専門職が自己肯定感を大切にしながら伴走し、体重の減少や運動習慣の定着といった成果だけでなく、「自分で決めた目標を実践できた」「少しずつでも行動を変えられた」という成功体験を積み重ねることで、自己効力感を高めていきます。参加者が自ら目標を設定し、自分の意思で行動を選択し、専門家の支援を受けながら達成経験を重ねることで、健康面だけでなく仕事や生活全般における前向きな行動変容につながることを期待しています。健幸ハピネスアクションは、健康診断結果の改善だけを目的とした施策ではなく、自ら望む未来へ向けて行動できる人を増やすことを目指しています。



① 理想の未来を描く

② 保健師と対話する

③ 自分に合った行動を選ぶ

④ 行動が習慣になり、
理想の未来に近づく

健康実績数値

項目	区分	2023年度	2024年度	2025年度	単位
定期健康診断受診率	三菱食品	100	100	100	%
	3社 *1	—	—	100	%
二次検査対象者率	三菱食品	30.5	31.7	40.3	%
	3社	—	—	39.7	%
二次検査受診率 ①対象者全体 ②内、要精密検査	三菱食品 ①	71.9	67.8	68.9	%
	三菱食品 ②	73.2	69.9	75.5	%
	3社 ①	—	—	64.9	%
	3社 ②	—	—	71.5	%
特定保健指導受診率	三菱食品	51.9	39.6	41.5	%
	MSCS *2	—	—	68.0	%
	BLP *3	—	—	—	%
血圧ハイリスク者率 (収縮期血圧180mmHg以上または拡張期血圧110mmHg以上)	三菱食品	0.7	0.7	0.7	%
	3社	—	—	0.7	%
糖尿病管理不良者率 (HbA1cが8.0以上)	三菱食品	1.5	1.6	1.2	%
	3社	—	—	1.1	%
血糖リスクと考えられる人の割合 (空腹時血糖が200mg/dl以上の人の割合)	三菱食品	0.3	0.5	0.4	%
	3社	—	—	0.3	%
適正体重維持者率 (BMI18.5以上25未満) 【KPHI】30年度:70%以上	三菱食品	62.0	61.0	61.9	%
	3社	—	—	62.0	%
運動習慣者率 (1回30分以上の汗をかく運動を週2回以上、1年以上継続) 【KPHI】30年度:50%以上	三菱食品	26.1	26.6	26.6	%
	3社	—	—	26.5	%
喫煙率 【KPHI】30年度:12%以下	三菱食品	24.0	23.5	23.1	%
	3社	—	—	22.6	%
睡眠により十分な休養が取れている人の割合 【KPHI】30年度:80%以上	三菱食品	70.3	70.4	69.4	%
	3社	—	—	69.4	%
朝食欠食率	三菱食品	30.9	31.1	31.4	%
	3社	—	—	30.7	%
飲酒習慣比率 (毎日飲むと回答した割合)	三菱食品	27.5	17.6	16.7	%
	3社	—	—	16.6	%
飲酒リスク率	三菱食品	—	17.3	17.4	%
	3社	—	—	17.2	%

*1. 3社は、三菱食品(株)、MSコーポレートサービス(株)、(株)ベスト・ロジスティクス・パートナーズの平均
*2. MSCSは、MSコーポレートサービス(株)の略
*3. BLPは、(株)ベスト・ロジスティクス・パートナーズの略
*4. KPHIはKey Physical Health Indicatorの略
*5. 2024年度より、特定健診における問診項目が変更している。

項目	区分	2023年度	2024年度	2025年度	単位
ストレスチェック受検率	三菱食品	98.0	97.6	97.5	%
	3社	—	—	97.6	%
ストレスチェック高ストレス者率	三菱食品	9.2	8.1	8.7	%
	3社	—	—	8.6	%
社員エンゲージメント (組織風土調査結果より「社員エンゲージメント」における肯定的回答の割合) 【KGI】27年度:65%以上、30年度:70%以上	三菱食品	59	64	64	%
	MSCS	—	—	63	%
	BLP	—	—	60	%
ワーク・エンゲージメント (ストレスチェックにおける肯定的回答の割合) ①該当者率 ②測定人数 ③回答率	三菱食品	①	84.3	87.0	87.0 %
		②	4,162	4,103	4,134 名
		③	98.0	97.6	97.5 %
	3社	①	—	—	86.9 %
		②	—	—	4,312 名
		③	—	—	97.6 %
	三菱食品	①	1.2	1.0	1.2 %
		②	3,675	3,677	3,656 名
		③	100	100	100 %
アブセンティーイズム (連続一カ月以上を基準とし、私傷病による長欠・休職者の割合) ①該当者率 ②測定人数 ③回答率	三菱食品	①	—	—	1.2 %
		②	—	—	3,677 名
		③	—	—	100 %
	3社	①	—	—	1.2 %
		②	—	—	3,677 名
		③	—	—	100 %
	三菱食品	①	33	33	33 %
		②	4,162	4,103	4,134 名
		③	98.0	97.6	97.5 %
プレゼンティーイズム (出勤はしているものの、健康上の問題によって完全な業務パフォーマンスが出せない状況) ①損失率 ②測定人数 ③回答率	三菱食品	①	—	—	33 %
		②	—	—	4,312 名
		③	—	—	97.6 %
	3社	①	—	—	33 %
		②	—	—	4,312 名
		③	—	—	97.6 %
	三菱食品	①	—	—	33 %
		②	—	—	4,312 名
		③	—	—	97.6 %
従業員のヘルスリテラシーの状況 (e-learning「ウェルビーガイド」の受講率)	三菱食品	98.4	98.8	96.3	%
	3社	—	—	96.2	%
自己肯定感 (健康アンケートより「できる自分もできない自分も含めて、ありのままの自分を受け入れている」度合いを1【受け入れている】～10【受け入れている】で評価した平均点数) 【KPI】27年度:6.5以上、30年度:7.0以上	三菱食品	6.4	6.4	6.4	点
	3社	—	—	—	—
自己効力感 (健康アンケートより「自分の人生で起きることは、自分で何とかできる」度合いを1【できない】～10【できる】で評価した平均点数) 【KPI】27年度:6.5以上、30年度:7.0以上	三菱食品	6.2	6.3	6.3	点
	3社	—	—	—	—

*6. WHO-HPQ(Health and Work Performance Question)を用いて測定。数値は損失割合。